

|   |         |      |     |
|---|---------|------|-----|
| 授業科目名   | 中東と国際社会 | 単位数  | 2単位 |
| 担当教員名   | 佐々木伸    | 担当形態 | 単独  |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)  |         |      |     |
| 「学位授与の方針」との関係   |         |      |     |
| DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）<br>DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）  |         |      |     |
| 授業のテーマ及び到達目標  |         |      |     |
| 【授業のテーマ】<br>世界の火薬庫といわれる中東と国際社会の関係を考察する  |         |      |     |
| 【到達目標】<br>(1) 世界のエネルギー資源の宝庫である中東でなぜ紛争が多発し、不安定な状況が続くのか、その原因や構造を探求する。<br>(2) 紛争の背景である歴史、政治、宗教、民族、文化などの理解を深める。<br>(3) 中東への大国の影響力行使について考察し、平和と安定への道を展望する。<br>(4) 日本と中東との関わり、並びに日本の国際貢献と共生の在り方について考える。   |         |      |     |
| 授業の概要   |         |      |     |
| 世界の「紛争の巢」ともいえる中東情勢について、列強支配の歴史、政治、ユダヤ、キリスト、イスラムという宗教を含め、民族、文化、言語などの基本を多角的なアプローチで把握、分析。紛争の根本的な要因であるパレスチナ紛争や、イスラム過激派の興亡、ペルシャ湾の緊張など対立と分断の現況を研究、平和実現の展望を探り、中東と世界、そして日本との共生の可能性を考察する。  |         |      |     |
| 授業計画  |         |      |     |
| 第1回：中東を知る—中東の基礎知識（3大宗教、民族、言語、社会、文化など）<br>第2回：パレスチナ紛争の本質と歴史的背景<br>第3回：中東紛争の拡大—植民地主義と民族主義<br>第4回：和平への動きと米国の調停—エジプトの単独和平、オスロ合意<br>第5回：トランプ米前政権によるエルサレムへの米大使館移転、新和平提案<br>第6回：ガザ戦争<br>第7回：イスラム急進主義とイラン革命<br>第8回：国際テロ9・11とアフガニスタン戦争、米国のイラク侵攻<br>第9回：湾岸の諸戦争—イラン・イラク戦争、湾岸戦争<br>第10回：イランと米国の対立 ペルシャ湾の緊張<br>第11回：アラブの春の衝撃<br>第12回：シリア内戦とロシアの介入<br>第13回：イスラム国（IS）の興亡<br>第14回：紛争の処方箋と和平への展望<br>第15回：中東と日本、国際貢献と共生の道<br>科目修得試験 |         |      |     |
| スクーリングでの学修  |         |      |     |
| スクーリングでは中東各国で居住した経験や、戦争体験などをもとに現地感覚を共有する授業を行う。  |         |      |     |
| テキスト  |         |      |     |
| (1) 佐々木 伸 ダウンロード教科書<br>(2) 鹿島正裕（2013）「中東政治入門」増補新版   |         |      |     |
| 参考書・参考資料等   |         |      |     |
| (1) 奈良本 英佑（2017）『14歳からのパレスチナ』合同出版<br>(2) 池内 恵（2018）『シーア派とスンニ派』新潮選書  |         |      |     |
| 学生に対する評価  |         |      |     |
| スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）   |         |      |     |